

平成28年度 法人事業報告書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

平成28年度 社会福祉法人長尾福社会 事業報告

【社会福祉法人 長尾福社会 法人理念】

障害をもっているも もっていないも 男も女も

「生まれておめでとう・成長しておめでとう・長生きしておめでとう」といえる
社会づくりを目ざします。

第1章 法人全体事業総括

【概況】

平成28年度は、当初の計画で今年度の課題としていた地域での多様な福祉ニーズへの対応を、障がい分野、高齢分野ともに検討し様々な取り組みをしてきたが、昨年までの状況とは明らかに違う利用者動向となり、収支面では厳しい結果となった。

特に高齢者分野の利用者要介護度低下や重度化と利用者増を見越した人事計画が高齢事業全般に人件費増大につながり事業を圧迫した。

障がい分野では新築移転後懸案事項であった児童デイサービス事業所の定員変更がようやく実現したことで、来年度以降は収支バランスが改善できる予定である。

また新たな保育事業については高松市花園町での建設工事を3月に着手し、昨今問題となっている近隣住民との建設トラブルもなく順調に工事を進めることができている。

来年は制度・報酬改正もあり運営面を改めて見直し、地域福祉の発展と持続可能な法人として体制強化を図る必要がある。

【基本方針の取り組み】

さぬき市内の福祉ニーズの調査研究と地域の関係団体との連携を行った。各事業所での活動と情報収集の他、2年目を迎えた「香川おもいやりネットワーク事業」の活動を通じての、関係団体との意見交換は毎月行うことができた。

【平成28年度 長尾福社会 基本目標】

- 既存の事業の充実と新たな事業への参入
- 地域の福祉ネットワークの構築

【平成28年度 長尾福社会 基本目標達成のための重点事業】

- 自法人のサービス評価と面的サービスの実現を向けての研究

今年度はゆたか荘において第三者評価を受審した、3年ぶりの受審で改めて自施設のサービス評価を行った。

- 地域包括ケアの実践

「香川おもいやりネットワーク」参画をきっかけに昨年にも増して県・市社会福祉協議会や地域の福祉施設等とケース会議の機会が増えた。28年度は毎月の担当者会の開催と年2回の代表者

会に参加をした。

- 健全な法人経営と情報公開

今年から会計士と顧問契約をし、法人会計処理の見直し適正化を図った。計算書類や現況報もホームページ上と関係団体の公表サイトへの登録を行った。

- 次代を担う人材の積極的採用と育成

28年度は高齢・障がい施設ともに新卒者の採用ができた。

- 中長期事業計画の策定と法人理念の共有と発信

中期事業計画の骨子まではまとめることができたが、職員参画の策定までは至っていない。

30年度の制度・報酬改定に合わせて法人の将来像を共有していきたい。

- 社会福祉法改正への対応

会計士、社会保険労務士の指導の下、改正に伴う事務を予定通り行うことができた。

第2章 法人本部事業報告

【理事会・評議員会の運営】

評議員会の開催

第1回 平成28年5月27日（金）ハーティヴィラ亀鶴相談室

議案第1号 平成27年度事業報告の承認について

議案第2号 平成27年度収支決算の承認について

第2回 平成28年6月20日（月）ハーティヴィラ亀鶴相談室

議案第1号 高松市花園町児童福祉施設整備計画について

議案第2号 高松市花園町児童福祉施設用地購入について

議案第3号 高松市花園町児童福祉施設整備特別会計について

第3回 平成28年11月14日（月）ハーティヴィラ亀鶴相談室

議案第1号 さぬき市長尾名の土地取得について

議案第2号 特別養護老人ホームゆたか荘ナースコールの更新に伴う契約について

議案第3号 平成28年度収支補正予算（第1号）について

議案第4号 ケアプランセンターゆたか運営規程の変更について

議案第5号 高松くりの木保育園（仮称）事業採択について

議案第6号 高松くりの木保育園（仮称）設計入札について

議案第7号 さぬき市認定こども園計画について

第4回 平成28年12月22日（木）ハーティヴィラ亀鶴相談室

報告第1号 ケアプランセンターゆたか指導監査結果の報告について

報告第2号 高松くりの木保育園（仮称）整備費補助金の決定について

- 議案第1号 高松くりの木保育園（仮称）設計入札結果および契約について
- 議案第2号 定款の変更について
- 議案第3号 社会福祉法人長尾福祉会評議員選任・解任委員会運営に関する細則について
- 議案第4号 さぬき市介護予防教室事業について

第5回 平成29年2月20日（木）ハーティヴィラ亀鶴相談室

- 議案第1号 高松くりの木保育園（仮称）建設工事入札業者選定について
- 議案第2号 高松くりの木保育園（仮称）建設工事入札予定日および予定価格について

第6回 平成29年3月28日（火）ハーティヴィラ亀鶴相談室

- 議案第1号 高松くりの木保育園（仮称）建設工事入札結果について
- 議案第2号 平成28年度収支補正予算（第2号）について
- 議案第3号 平成29年度事業計画（案）について
- 議案第4号 平成29年度収支予算（案）について
- 議案第5号 平成29年度高松くりの木保育園（仮称）施設整備特別会計について
- 議案第6号 経理規程の一部変更について
- 議案第7号 社会福祉法人長尾福祉会理事の選任について
- 議案第8号 さぬき市長尾名104番1の土地の賃貸借について
- 報告第1号 社会福祉法人長尾福祉会評議員選任・解任委員会報告

理事会の開催

第1回 平成28年5月27日（金）ハーティヴィラ亀鶴相談室

- 議案第1号 平成27年度事業報告の承認について
- 議案第2号 平成27年度収支決算の承認について

第2回 平成28年6月20日（月）ハーティヴィラ亀鶴相談室

- 議案第1号 高松市花園町児童福祉施設整備計画について
- 議案第2号 高松市花園町児童福祉施設用地購入について
- 議案第3号 高松市花園町児童福祉施設施設整備特別会計について

第3回 平成28年11月14日（月）ハーティヴィラ亀鶴相談室

- 議案第1号 さぬき市長尾名の土地取得について
- 議案第2号 特別養護老人ホームゆたか荘ナースコールの更新に伴う契約について
- 議案第3号 平成28年度収支補正予算（第1号）について
- 議案第4号 ケアプランセンターゆたか運営規程の変更について
- 議案第5号 高松くりの木保育園（仮称）事業採択について
- 議案第6号 高松くりの木保育園（仮称）設計入札について
- 議案第7号 さぬき市認定こども園計画について

第4回 平成28年12月22日(木) ハーティヴィラ亀鶴相談室
報告第1号 ケアプランセンターゆたか指導監査結果の報告について
報告第2号 高松くりの木保育園(仮称) 整備費補助金の決定について

議案第1号 高松くりの木保育園(仮称) 設計入札結果および契約について
議案第2号 定款の変更について
議案第3号 社会福祉法人長尾福祉会評議員選任・解任委員会運営に関する細則について
議案第4号 さぬき市介護予防教室事業について

第5回 平成29年2月20日(木) ハーティヴィラ亀鶴相談室
議案第1号 高松くりの木保育園(仮称) 建設工事入札業者選定について
議案第2号 高松くりの木保育園(仮称) 建設工事入札予定日および予定価格について

第6回 平成29年3月28日(火) ハーティヴィラ亀鶴相談室
議案第1号 高松くりの木保育園(仮称) 建設工事入札結果について
議案第2号 平成28年度収支補正予算(第2号)について
議案第3号 平成29年度事業計画(案)について
議案第4号 平成29年度収支予算(案)について
議案第5号 平成29年度高松くりの木保育園(仮称) 施設整備特別会計について
議案第6号 経理規程の一部変更について
議案第7号 社会福祉法人長尾福祉会理事の選任について
議案第8号 さぬき市長尾名104番1の土地の賃貸借について
報告第1号 社会福祉法人長尾福祉会評議員選任・解任委員会報告

【施設整備・補修事業】

①高松くりの木保育園(仮称)の事業用地取得

土地 2147.06㎡ 建物332.42㎡/1319.62㎡
平成28年6月23日契約 売主(国) 四国財務局長 余島義豊

②高松くりの木保育園(仮称)の解体工事請負契約

平成28年9月28日契約 請負者 株式会社 キセイクル 代表取締役 国見智和

③高松くりの木保育園(仮称)の設計監理業務委託契約

平成28年11月19日契約 受注者 有限会社 藤岡総合設計

④高松くりの木保育園(仮称)の工事請負契約

平成29年3月13日契約 請負者 株式会社 寺村建設興業 代表取締役 寺村好記

【その他事業】

平成28年9月6日 のぞみ園開園20周年記念食事会への協力

【法人運営事業】

平成28年度は次の事業を行った。

- ① 第一種社会福祉事業
 - 障害者支援施設のぞみ園の経営
 - 特別養護老人ホームゆたか荘の経営
- ② 第二種社会福祉事業
 - 障害福祉サービス事業
(短期入所 のぞみ園・のぞみホーム1号館)の経営
 - 障害福祉サービス事業
(共同生活援助 グループホームのぞみ・のぞみホーム1号館)の経営
 - 障害児通所支援事業
(児童発達支援、放課後等デイサービス のぞみ児童デイサービス事業所)の経営
 - 一般相談支援事業(生活支援センターのぞみ)の経営
 - 特定相談支援事業(生活支援センターのぞみ)の経営
 - 障害児相談支援事業(生活支援センターのぞみ)の経営
 - 老人短期入所事業 (ゆたか荘、ハーティヴィラ亀鶴ショートステイセンター)の経営
 - 老人デイサービス事業(デイサービスセンターゆたか、ハーティヴィラ亀鶴デイサービスセンター)の経営
 - 老人居宅介護等事業
(ハーティヴィラ亀鶴ヘルパーステーション)の経営
 - 生計困難者に対する相談支援事業
- ③ 公益事業
 - 居宅介護支援事業
 - サービス付き高齢者向け住宅事業

第3章 障害者支援施設のぞみ園事業報告

平成28年度は、利用者の意思及び人格の尊重、利用の立場に立った障害福祉サービスの提供、就労支援への取り組みの推進、障害児支援の強化、相談支援事業の拡充を目標に、各事業の円滑な実施と経営の安定、高齢利用者の対応の検討、グループホーム運営の充実、障害児通所支援事業の充実、発達障害相談支援事業の実施、リスクマネジメントの徹底を課題として取り組んできた。「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）が制定されて4年目を迎えた。全ての国民が、障害の有無にかかわらず、等しく基本的人権を享有するかけがえない個人として尊重されるものであるという理念にのっとり、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現するため、全ての障害者及び障害児が可能な限りその身近な場所において必要な日常生活または社会生活を営むための支援が総合的かつ計画的に行わなければならないことを基本理念としている。また総合支援法は30年4月に法改正および報酬改定が予定されている。全体としての報酬はマイナス改定が予測されているが園としてはその動向を見極めながら対策を考え、経営努力をしていくことが必要となっている。

平成25年6月「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が公布され、平成28年4月1日施行されることになった。のぞみ園として、障害を持つ利用者が自ら望む生活を送るため、どのような支援が必要なのかを模索しながら積極的に事業を展開してきた。

施設入所支援、日中活動としての生活介護事業、就労継続支援B型事業、生活支援センターのぞみにおける相談事業やグループホーム、のぞみ児童デイサービス事業所等それぞれにおいて利用者のニーズに沿った支援活動を行って来た。

28年度は園開設20周年という節目の年を迎えた。20周年記念行事として9月、トレスタ白山にて「20周年記念食事会」を実施した。また記念誌を作成し利用者、保護者、職員にそれぞれ配布した。

毎月の企画調整会議、寮会議において職員間の連絡調整を図り、職員会議や職員研修会等で職員の資質向上の研修にも積極的に取り組んで来た。また今年度から入所相談委員会を定期的を実施し、入所待機者などを検討する機会を作っている。

(1)、施設入所支援

1. 支援内容

- ・個別支援計画を中心に本人、保護者の意向の把握に努めそれを反映した支援及び日課を設定、実施していくよう努めた。また個別のニーズに可能な範囲で対応する個別日課を設定し、定期的に見直しも行った。
- ・外出、余暇などを中心に自己選択、自己決定を促しながら支援を実施した。
- ・環境美化係を中心に定期的な居室、寮内清掃および消毒などを実施し生活空間を整備した。
- ・夜間に支援が必要な利用者は定時排泄や個別の対応を実施した。
- ・休日は楽しく充実した時間が過ごせるよう余暇支援を強化した。
- ・作業棟のフロアを改修した。雨漏り等の改修は次年度への課題となっている。
- ・家庭と連携し連絡帳などを通じて情報共有しながら支援にあたった。

- ・重度の利用者に対し、絵や写真などを通じコミュニケーション支援やスケジュール提示を実施した。
- ・月1回安全委員会を開催し、事故、ヒヤリハット報告書の分析、再発防止対策について協議した。今年度は骨折が2件など大きな事故もあったため再発防止の協議に時間を割いた。

2. 女子寮

15名が入所している。年齢層が幅広く、また高齢化及び重度化に伴い、身体的介助が優先されるケースや、高齢者に多い認知症に似た症状がみられるケース、また医療的ケアが必要となっているケースや、行動障害のために環境調整やマンツーマンでの対応が必要なケースが増えてきた。これまでの支援内容や個別な日課活動の具体的な内容、全体で動く食事や入浴での移動、掌握の体制を見直した。身体障害者施設への移行が実現した利用者もいるが更に利用者が健康で安心・安全な生活が送れるような支援が十分とは言えない。生活空間である環境面での具体的な見直しは今後に向けて大きな課題となっている。また利用者や保護者の要望を反映した日中活動や余暇の内容、レクリエーション、外出などを取り入れ、楽しみを感じながら豊かな生活につなげられるような支援を目標に実施した。

3. 男子寮

15名が入所している。排泄・入浴支援等の基本的な支援だけでなくコミュニケーションの充実を図り、利用者がどのようなニーズを持っているかしっかりと把握できるよう努めており、今年度も月に一度寮での自治会も開催している。男子寮では健康維持活動として歩行や体操、余暇活動として作品制作やカラオケ、スポーツ、DVD鑑賞、調理実習、また清掃活動として食堂掃除や浴室清掃、洗車などを行っている。社会参加については利用者のニーズに合った外出ができるよう支援員とマンツーマンで外出できる機会や地域の清掃活動の機会をつくっている。また積極的に地域の行事やスポーツ大会などにも参加している。またニーズに合った活動を提供しようと努めていることや信頼関係の構築に努めていることもあり積極的に日中活動に参加できている。

4. 南寮

19名(29年3月末)が入所している。29年4月に1名入所し計20名になる予定。高齢化に伴い、高齢者施設への移行が必要なケースや強度行動障害への支援が必要なケースがあり、環境調整やマンツーマン対応を余儀なくされるケースがあり、高齢化に対する対応や行動障害に対する対応など必要に応じて実施してきた。

行動障害の強い利用者のケース会議や問題解決の為の会議を定期的実施し、具体的な支援方法を検討し、実施してきた。個別のアプローチにおいては個別支援計画の内容を具体化し、充実を図っていくことや個人日課を見直すことが必要である。集団へのアプローチにおいては環境調整や日中活動の充実、日課の見直しを必要に応じて実施していく必要がある。洗濯たたみ、歩行、余暇などの集団的な活動に加えて、個人日課や個別歩行、定期的な個別外出、全体外出等の集団と個別を混ぜながら日中活動を実施している。

個別日課は水が好きな利用者はコップ洗い、洗濯者が気になる利用者は洗濯物の仕分けなど、本人の興味あること、できること、好きなことを見つけながら取り組んできた。今後もエンパワーメントとストレングスに視点をあてた個人日課の取り組みを実施していきたい。

5. 短期入所

利用希望者には、迅速に対応し、28年度は20名が158件利用した。また、日中一時支援は12名が113件利用した。

6. 通所部

年度初めは9名であったが1名女子寮に入所し現在8名となっている。日中活動として、軽作業、環境美化、歩行、余暇活動、を実施している。必要な利用者には排泄、入浴支援も実施した。また余暇、個別外出、調理実習などの行事にも力を入れ、利用者の楽しめる活動を提供できるよう取り組んできた。その他、情緒の安定のために見通しを持って生活できるようスケジュールの工夫した提示、自由時間の過ごし方の訓練として自立課題も実施してきた。

(2) 日中活動・生活介護

主として日中に、入浴、排泄及び食事等の介護、家事並びに生活等に関する相談、助言その他必要な日常生活上の支援、創作的活動または生産活動の機会の提供その他の身体機能または生活能力の向上のために必要な援助を行っている。平成28年度は、生活介護の定員が60名で、3つのグループに分け、生活介護Ⅰが18名、生活介護Ⅱが、20名、生活介護Ⅲが20名である。

1. 支援内容

本人、保護者の意向を確認しそれをもとに個別支援計画を作成し支援にあたった。本人なりの自立、本人なりの楽しみが見つけられることを目標に日課を設定したり余暇支援などを実施した。

サービス管理者や各部署との連携も図り、各支援マニュアルの一部見直しも行い、支援員全員でマニュアルの見直しも行った。また、個々のケースに応じた日課の内容を再検討し、状況に応じてグループ分けを実施に支援した。

年齢の幅や障害の程度差、常に個別な対応が必要なケースが増えていることで、生活の場や活動する空間として環境面での課題が大きくなっている。

(3) 就労継続支援B型事業 13名

就労継続支援B型の利用者は13名である。ダンボール組立(富士ダンボール、パック三樹)、和三盆(ばいこう堂)、菓子工房(パン、クッキー、パウンドケーキ)、喫茶コーナー清掃、ゆたか荘清掃、ディサービスゆたかの清掃、南寮トイレ掃除、ディサービスおしぼり洗濯、社協タオル洗濯、さぬき市委託作業(封筒入れ)などの仕事を中心に行っている。全員ではないが一部作業単価や作業内容を見直し、工賃アップにつなげることができ

た。今後も工賃が向上できるよう努力していきたい。また年間を通して園内行事に参加することで仕事を中心にしながらも、生活感のある就労継続B型を目指して活動している。今年度は3月に1名が通所生活介護に移行し3月に1名が新規で加わり現在13名となっている。

(4) 28年度入所・退所（29年3月末）

	女子寮	男子寮	南寮	通所	就労B
定員	15	15	20	10	15
入所	1	0	0	0	0
退所	1	0	1	0	0
園内移行	0	0	0	1	1
計	15	15	19	8	13

(5) グループホーム

1. グループホームのぞみ

女性利用者5名が共同で生活していたが28年度1名が加わり6名となった。環境美化などの当番活動などを実施しながらそれぞれが自立し落ち着いた生活を送っている。今後も健康で安心できる生活を送っていくため相談その他の日常生活の支援を実施していく。

2. のぞみホーム1号館

現在男性6名が共同生活を送っている。入浴など生活面での支援が必要な利用者もいるが休日は買い物に出かけるなど地域で落ち着いて生活している。29年3月末で1名の空室があるため29年度の課題となっている。

28年度グループホーム入所・退所状況

	グループホームのぞみ	のぞみホーム1号館
定員	6	7
入所	1	1
退所	0	0
計	6	6

(6) 相談支援事業

1. 生活支援センターのぞみ

地域で生活する障害者、児、その家族の様々な相談を受け対応し、福祉サービスの利用に繋がったり、他機関と連携して困り事を解決してきた。また、利用者の日々の困りごと等

に対して支援してきた。虐待等の困難事例に対しては、関係機関と連携をとり対応している。障害のある方が地域で安定した生活が送れるように支援し一人ひとりに寄り添った支援が提供できることを目指すことを事業方針として取り組んだ。しかし、社会資源が十分でないため、利用者の希望に沿った支援ができないことが課題である。

大川圏域自立支援協議会、香川東部養護学校の進路説明会や地区懇談会、さぬき市発達障害支援連携協議会、さぬき市児童対策地域協議会等に参加した。

2. 相談件数

①指定特定相談支援

計画作成件数 141件 モニタリング 50件

②障害児相談支援

計画作成件数 68件 モニタリング 27件

③指定一般相談支援

27年度は対象者がいなかった。

④上記以外のさぬき市・三木町からの委託で実施する基本相談支援

- ・障害児・者、その家族の様々な相談を受け対応をする。
- ・利用者の日々の困りごと等に対する支援
- ・虐待等の困難事例に対しては、関係機関と連携をして対応する。

(7) のぞみ児童デイサービス事業

1. 事業状況

①放課後等デイサービス事業

対象・・・児童、生徒（6歳～18歳）

時間・・・放課後6時間を基本に土曜日(月2回)振休日・長期休業中は終日利用(9時から18時)を受け入れた。必要に応じて、前後1時間ずつの延長支援対応を行った。

送迎・・・香川東部養護学校・長尾小学校・志度小学校、津田小学校、さぬき南小学校の下校時刻に合わせて、当所からの迎え(登所支援)を実施した。自宅送迎は行っていない。

②児童発達支援事業

対象・・・幼児（1歳から就学前）

時間・・・9時から18時の終日利用を受け入れている。必要に応じて前後1時間ずつの延長支援対応を行った。

送迎・・・実施していない。

③さぬき市発達障害相談支援事業(ほっとすてっぷ)

対象・・・幼児・児童・生徒本人及び家族、または支援に携わる保育者、教員、支援等機関支援として学校や幼稚園、保育所訪問を実施している。

時間・・・9時から18時までの随時（事前予約）

④事業実績

利用者数

放課後デイサービス事業	34名	4015件	1日平均	15、15名
児童発達支援事業	14名	907件	1日平均	3、42名
計	46名	4922件	1日平均	18、57名

両事業の多機能25名定員で今年度も展開してきた。長期休業中や特定曜日には定員を超える利用があり、毎年実績は着実に増加しているものの目標達成は難しいまでの利用状況や地域のニーズ調査、分析などにより20名定員が適正定員と判断し29年4月から20名定員に変更した。

(8) その他

- ①行事 花見、遠足、スポーツレクリエーション、テーブルマナー、クリスマス会等6回を実施。また9月には20周年記念食事会をトレスト白山で実施した。
- ②地域交流 しょうぶまつり、いきいき福祉まつり、ふれあいウオーク、ひなまつり茶会等計19回実施。
- ③地域貢献 川上地区の清掃活動を月1回実施。さぬき市役所へ等週1回パン販売に行った。
- ④医務 健康診断、歯科検診、定期健診、その他健康管理、衛生管理を実施した。
- ⑤給食 栄養ケアマネジメント、3か月に1回の保健栄養会議などで利用者の健康維持などについて協議した。
- ⑥環境美化 年2回親子共同作業、年1回ワックスがけなどの大掃除を実施した。
- ⑦実習 高松大学、高松短期大学、四国福祉専門学校など計10名受け入れた。
- ⑧職場研修 強度行動障害、利用者高齢化の対応、虐待などをテーマに計11回実施。
- ⑨スポーツ大会 ソフトバール大会、障がい者スポーツ大会、卓球大会など計7回参加。

第4章 特別養護老人ホームゆたか荘事業報告

(1) 平成28年度 ゆたか荘取り組み目標に対する成果

目標Ⅰ 自立支援に向けた 専門性の高いチームケアの提供

社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・看護師・准看護師・管理栄養士・歯科衛生士・認知症ケア専門士・認知症介護指導者等の専門知識を持った職員が多数在籍し、ご利用者に専門的なアプローチを心がけた。

認知症ケアについては、認知症についての理解を深める為に、認知症介護指導者が中心となって定期的な研修会を開催し、認知症の方への対応や今までのケアについて振り返る良い機会となった。また、全職員が11の委員会に分かれて積極的に活動し、委員会の中で知識や専門性を高めるとともに、各委員会が主催となって職員全体に研修を行うなど、介護技術や専門知識の向上に努める事ができた。全国老人施設協議会、香川県老人施設協議会、また、介護労働安定センター主催の外部研修にも積極的に参加し、最新の介護情勢や他施設での取り組みも学ぶ事ができた。

目標Ⅱ ご利用者の視点に立った 生きがいや喜びが感じられる暮らしの提供

生活の中で自己決定できる機会を増やせるように、喫茶のメニュー選びや買い物外出、遠足等、地域の中に出ていく事、ご利用者の希望に沿った生活ができる事を目標に行事計画を策定した。毎年実施しているバス旅行も、重度化により遠出が難しくなっているが、ご家族にとっても一緒に過ごせる貴重な時間が持てると大変好評であり、28年度はより安全面にも配慮したバス遠足を計画、岡山県の倉敷まで出かけることができた。職員・ご家族含めて50名余りが参加頂き、皆さん大型観光バスの車窓から眺める景色を楽しまれていた。車椅子の方も無理なく楽しめたようで喜んでいただけた。

また、季節感を感じていただけるように、玄関前にゴーヤやトマトなどの苗を植えたり、お花の成長を楽しむ等、生活の中で生きがいを感じられる工夫も行った。

目標Ⅲ ご利用者の尊厳と想いを大切にされた個別ケア

多職種が関わり「介護情報共有シート」を作成、一人ひとりの状態を理解するとともに、連動して作成されているケアプランに沿って支援が行われている。新採用職員も「介護情報共有シート」を確認することで、ご利用者の状態が解り「ケアの質の均等化」が図れた。

今年度も継続していた「のぞみを叶えよう」という取組では、皆様の希望をお聞きして思い出の地へ外出されたり、結婚式や法要、墓参り等、様々なご希望に対応することができた。施設で暮らすことで閉鎖的にならず、いつまでもご家族や地域・社会との繋がりが実感できる支援ができた。また、自分の考えや意思を伝える機会と社会参加の意味もあり、不在者投票所を開設、希望された方には選挙にも参加していただいた。「投票」する事で社会の一員としての任務を果たすことができ喜ばれていた。

看取りケアを行うにあたっては、人生の終焉まで安心して過ごしていただけるように、ご家族をはじめ、嘱託医・介護・看護・管理栄養士・介護支援専門員等がチームとして連携し、心を込めて温かさが感じられる「尊厳ある看取り」をサポートさせていただいた。看取りをされたご家

族には「看取り後のアンケート」をお願いし、率直な感想や改善が望まれる部分についてご意見をいただいた。アンケートの内容を再度職員会で振り返り、次の看取りに活かせるようにした。

目標Ⅳ 優秀な福祉人材の確保と育成

福祉系大学、専門学生を実習施設として積極的に受け入れた。ホームページにて施設の活動内容を幅広く公表し、新卒以外にも経験豊富な介護人材の採用にも力を入れた。定期的にある就職フェアにも参加し、職員も施設の特徴等をしっかりと伝えられるように研修に参加した。

目標Ⅴ 福祉の啓発活動と地域貢献活動

地域と施設がお互いに助け合い、地域の一員として施設を活用していただけるような取り組みを続けている。28年度も長尾小学校3年団に、車椅子体験で子ども達が興味を持てるような体験型の福祉啓発活動を実施した。地域の美化活動やサロン会活動の支援、朝の「あいさつ運動」等、地域の子どもや高齢者と交流する機会を持った。また、地域を良くする活動として、さぬき市高齢者虐待防止ネットワークや長尾地区地域福祉活動計画の策定にも参加、他にも長尾小学校の評議委員としてPTA活動にも積極的に参加・協力しながら、地域福祉ニーズの把握に努めるとともに、福祉の向上と安心して暮らせる社会づくりに協力できた。

目標Ⅵ 効率的な運営と安定的経営

ベッドの稼働率を安定させ、効率的な運営を心がけた。入院等の急な空床が少なくなるよう日頃の体調管理と早めの病院受診に努めたが、ご利用者の重度化や看取り後の入所案内がスムーズにいかなかった等で稼働率の低下がみられた。介護報酬マイナス改定の影響もあり、効率的なベッドコントロールが今後の課題である。また、設備面での経年劣化で修理が相次ぎ、修繕費が増えた。他には、以前から予定されていたナースコールの改修を今年度行い、職員にとっても働き易く、利用者にとっても便利になった。

(2) 平成28年度 職員行動目標評価

『やりがいを持って働こう!』

職員ひとり一人が受け身にならず、業務改善委員会に通す等、働き易さやスムーズに業務が流れるように自分から創意工夫に努めた。仕事の経験が自分の成長に活かしているか、チーム・職場に貢献できているかを確認する機会にもなった。

やりがいを持って楽しく仕事に就ける事は、結果的には「ご利用者に喜ばれる仕事」ができたのではないかと評価したい。

(3) 有資格者の状況及び資格取得支援（平成29年3月現在）

資格名	人数	今年度取得者
社会福祉士	1	
施設福祉士	2	
介護福祉士	16	1

管理栄養士	2	
介護支援専門員	3	
看護師	4	
准看護師	2	
保育士	2	
歯科衛生士	1	
ヘルパー2級	5	
初任者研修修了	3	
実務者研修修了	5	2
認知症実践者研修	5	
認知症実践者リーダー研修	3	1
認知症ケア専門士	1	
認知症介護指導者	1	
防火・防災管理者	1	
喀痰吸引(14時間・50時間)	7	
1種衛生管理者	1	

今後も質の高いケアを目指し、職員全体が自己研磨に励むとともに、スキルアップに向けての資格取得支援を続けていきたい。

(4) 施設サービス及び各種委員会活動

<施設サービス部門>

【生活相談業務】

入所受付者も2月末には230件を超え、申込者の状況把握と新規利用者の迅速な案内が課題となっている。待機者の聴き取りを行うとすでに他施設へ入所していたり、他界されているケースもあり、定期的な待機者の確認を行い、情報の更新や把握が必要と感じている。

また、現在利用中の入所者及びご家族への相談業務として、その方の生活で困りごとが少なくなるようにご本人やご家族の意見、職員への聴き取りを行い、適宜調整を行った。長期入所者が入院になった場合には経過の聴き取りや退院に向けた病院との連携に努めた。また入院中に著しく心身の状態変化があった場合、看・介護職員との利用者情報の共有及び安全に受け入れるための体制の確保を行った。

短期利用者との相談業務では地域の各介護支援専門員と連絡を取り合い、ご家族やご利用者の希望に沿ったサービスの実施や日程の確保を心掛けた。短期入所利用者は毎月継続して同じ量のサービスを希望される方が多く、新規利用相談のすべては受け入れが困難であり、予定の段階では満床でも空きが出た場合など、出来る限り新規利用者獲得が行えるように調整を行っていきたい。

【給食】

ご利用者一人ひとりの栄養管理では、毎日の食事量、食事状況、体重増減や身体状況を確認し、食事内容や形態など多職種で話し合い連携できた。また、カンファレンスに参加することによって、ご利用者、ご家族の意向を伺うことができ、よりご利用者のニーズに応えることが出来た。季節ごとに行事を行うことによって、食事から季節感を感じて頂き、「美味しい」「また食べたい」等の声を頂くことができた。今後も、「美味しい」と言って頂けるよう支援を行っていききたい。

【医務】

ご利用者入所要件が原則要介護3以上となったことから、ゆたか荘のご利用者の平均要介護度は4.06と重度化が進行している。多職種連携のもと、健康状態の観察と異常の早期発見・早期対応、感染症予防による衛生管理の徹底を図り、ご利用者の安全管理・衛生管理を行った。体調不良時には、ご家族に対し、嘱託医が治療方針について都度説明し、カンファレンスを開催するなど取り組みの方向性の統一を図った。そのことで、意向に沿った医療の提供が行えたと思う。今後も、ますます医療ニーズの高い方のご利用や介護度の重度化が進んでいくことが予想される。ご利用者の日頃の健康管理はもとより、尊厳やプライバシーを大切にされた看取りケアについても心を込めて実施していききたい。

<ご利用者の健康管理>

血圧測定・体重測定（毎月）、検尿、結核健診（該当者）、血液検査（年1回と必要時）
嘱託医の回診（週2回と必要時）、看護師による健康観察（毎日）、内服薬の管理

<介護職員腰痛検診>

年2回、嘱託医にて

<職員健康診断>

年1回（夜勤職員については、年2回）

<医務実績報告>

	受診数	入院者数	退所者数 (死亡)	施設 (看取り)	注入者	喀痰吸引者
4月	32	0	1	1	6	0
5月	30	3	1	1	6	0
6月	24	0	0	0	6	0
7月	43	4	0	0	5	0
8月	40	3	1	1	6	0
9月	37	2	1	1	7	0
10月	37	1	0	0	7	0
11月	41	1	0	0	8	0
12月	35	1	2	0	6	0
1月	28	2	1	1	6	0
2月	46	3	3	3	6	0

3月	43	3	0	0	5	0
総数	436	23	10	8	74	0

<再入院>

3件

<最多入院歴>

肺炎

<その他>

医療廃棄物の管理、医薬品、医療機器の管理

【サービスステーション】

専門職との連携を図りながら、介護情報共有シートが最大限活用できるよう各サービスの標準化に努めることを目標として取り組みを実施してきた。

介護情報共有シートを活用していく上での課題として、

- ① 個人で内容を確認することはできているが、職員間での情報を共有することが十分にできていないことがある。
- ② 年に2回すべての御利用者のシート内容を確認のため回覧しているが、枚数が膨大な量となるため、細部までの確認がしづらい、回覧終了までに時間がかかるなどがあげられた。解決策として、月初めのグループ会議にて当月カンファレンス対象者のシートを打ち出し、状態変化による追加・修正項目がないか担当職員中心で話し合いを行える場を設けた。今後の課題としては、情報を共有することは出来ても、提供する職員個々に応じてサービス内容に違いが見られている現状がある。そのため、個人の技術・接遇面のレベルアップの底上げをしていく必要がある。人材育成（OJT）に対する考え方を統一し、指導者の育成を行うと共に、PDCAサイクル（P：計画・D：実行・C：評価・A：改善）確立のもと、個々に応じた指導を行うことで、質の高いサービスを提供できるよう努めていきたい。

<行事>

- 4月 お花見
- 5月 こいのぼりを楽しむ会（地域交流）
- 6月 菖蒲観賞会（長尾亀鶴公園）
- 7月 七夕まつり・行基ハイツ夕涼み会（地域行事参加）
- 8月 納涼夏祭り
- 9月 敬老会（百賀のお祝い）
- 10月 菊花展見学（大川町みろく）・バス遠足（岡山県：倉敷アイビースクエア）
ながおいきいき福祉祭り（地域行事参加）
- 11月 長尾地区文化祭（地域行事参加）
- 12月 忘年会・地域交流餅つき大会（地域交流）
- 1月 新年祝賀・初詣
- 2月 節分豆まき
- 3月 開荘記念行事・ひな祭り会・のぞみ園ひな祭り茶会

<その他>

- 喫茶（3回/月）
- ショッピング・外食ドライブ（4月～10月）

<会議の開催>

- [SS会議] ・定例開催 1回/月
- [グループ会議] ・定例開催 1回/月

【介護支援専門員】

介護保険の期間に合わせ原則6ヶ月毎に1回のプラン見直し作成、カンファレンスとケア変更時に随時や看取りに移行時のカンファレンスを、ご利用者・ご家族、各部署から情報を得て、アセスメント・モニタリングを行い、一人ひとりのご利用者に応じたプラン作成に努めた。

[ケアカンファレンス] ・定例開催 96回/年

4月（7件）・5月（7件）・6月（6件）・7月（8件）・8月（12件）・9月（9件）
10月（8件）・11月（10件）・12月（6件）・1月（8件）・2月（8件）・3月（7件予定）

・ケアの変更・看取り 8回/年

4月（1件）・5月（1件）・7月（1件）・9月（1件）・12月（1件）・2月（3件）

[認定調査] ・さぬき市からの委託 22件/年

【地域施設連携担当】

28年度はこれまでの地域貢献活動（あいさつ運動やクリーン活動など）の継続と地域福祉活動計画策定委員のほか、長尾地域いきいきネットに参画し、地域のニーズ把握や地域活性化に各種団体と連携を図りながら貢献することができた。

交流については、各種団体の皆様のご協力のもと、多くの訪問・ボランティアを頂くことできたうえ、なかでもご利用者が最も喜ばれる子供たちとの交流に関しては、これまでの長尾聖母幼稚園や長尾保育園のほか、地域コーディネーターとの連携により、新たに長尾幼稚園とも交流が図れるようになった。子どもとの交流は、ご利用者も喜ばれ、先の福祉人材の育成にも繋がると考えるので、今後も継続的に交流を図っていきたい。

保育所・幼稚園との交流 6回/年

地域団体との交流 5回/年

小学校との交流 1回/年

地区水路清掃（川上自治会） 1回/年

あいさつ運動 7回/年（土・日曜日、祝祭日を除く毎月8日に実施）

地元地域クリーン活動 12回/年（3月も実施予定）

福祉人材の育成については、介護福祉士及び実務者研修養成校等からの実習生の受入を積極的に行った。実習生の受入については、指導者となる職員の自己啓発にもつながるため、今後も継続した受入を実施する。

実務者研修 延 4名（延20日間）

介護福祉士養成実習	延 2名 (延30日間)
高校生総合的学習	延35名
徳島文理大学薬学部	延 1名 (延 1日間)
職場体験学習	延 4名 (延 6日間)

今後については、活動の内容をより充実していくとともに、当法人理念にもある「社会づくり」を実現するためにも、近隣自治会や社会福祉協議会等との連携・交流を深め、福祉に対する啓発活動に力を入れていきたい。そして、社会福祉法人がもつ知識や技術を福祉啓発活動の一環として地域に還元し、地域・施設を利用される全ての皆様の人生が、より良いものになるよう携わっていきたい。

【機能訓練】

多職種との連携を積極的に図り、ご利用者の身体状況を把握し、機能訓練に対するご本人の意向を確認したうえで、理学療法士（PT）とともに、専門的な視点からみた訓練プログラムを作成し実施をした。また、カンファレンスにも参加し、機能訓練の実施状況等を御家族に説明させて頂き、ご家族の意向を伺い、意向に沿ったプログラムを作成した。

訓練に関しては、ご利用者からの要望や機能訓練移意欲的なご利用者も多く、引き続き、多職種との連携を図りながら、ご利用者の自立した生活に繋がるリハビリを実施したい。

【歯科衛生士】

毎月の口腔ケア研修を行うことにより、口腔ケアの大切さや必要性、その方法等を多職種職員の理解を深めることができたとともに、ご利用者の状態に応じた口腔ケアを多職種で実施できた。

昨年に続き、協力歯科医療機関の医師より口腔内の状態が以前より改善されていると評価していただいた。今後も、歯科医療機関より助言指導を受け、毎月の口腔ケア研修に取り入れ、多職種連携にて情報を共有し御利用者個々の口腔ケアアセスメントシートを作成、口腔機能改善計画を立てていきたい。そのことにより、誤嚥性肺炎などの関連疾病を予防したい。

（5）委員会活動

医療ケア対策推進委員会

①28年度活動目標について

「誤薬のない体制」としては、食事の配膳時等、確認不足で発生する事が考えられるが、配膳時には3回フルネームでの呼名確認を徹底しているため、その対応で誤薬0と予防ができた。また、28年度の特徴として、食堂ホールでの「落薬」件数が増えている。服薬の大切さについて職員の意識が高まり、「落薬」も見逃さず、発見時に確実に報告できている結果と思われる。

②内服薬の変更・調整について

ご高齢になると、合併症も多く薬が増える傾向にある。定期健診の結果によっては医師と相談の上、薬の減量や調整を行い、少ない薬で健康な生活が送れるような取り組みをした。薬の減量後も看護や介護が情報を共有しながら、経過観察を継続することができた。

③体重の増減、及び栄養状態の検討について

毎月の体重測定の結果から、食事量の変化や嚥下状態、体のむくみ等の観察を行っていた。

④褥瘡管理シートでの検討について

褥瘡化を防ぐために、介護と十分話し合い、部位・治療方法・マットレスの選定等の検討を行った。褥瘡と褥瘡化の判断が曖昧であり、介護シート（写真）での検討が遅くなったケースもあった為、できるだけ早い時期に多職種と検討できるよう、次年度は改善したい

業務改善委員会

業務内容を検討し、“サービスの質の向上”と、“職員が働きやすい職場作り”を委員会目標として取り組み実施した。

職場の課題として、①業務内容のどの部分を見直ししていけばより働きやすい職場環境となるのか解らない、②改善すべき事項に対し、職員個々が改善案を考え提示することが出来ていないことなどが挙げられる。そのため、委員会メンバーが主となり、職員へ改善すべき事項を具体的に提示、改善案について意見の聞き取りを行った。結果として、一人ひとりの職員の想いを汲み取り意見を反映していくことができ、内容をしっかりと理解したうえで施行・改善していくことが出来た。

今後の課題としては、職員個々自らが職場の課題を抽出・考察し、委員会メンバーへ改善案を提示していけるスキルを身に付けていくこと。課題を施設の問題、他者の問題として捉えず、どうすれば「住みやすい」「働きやすい」環境となるのか一人ひとりがしっかりと考え、声をあげていけば変えられるといったプラスの意識を持つことが必要である。そのためには、適切な「声」に対し、業務を柔軟に改善していけるよう、施設の風土を作っていきたい。

安全対策委員会

「事故報告書にしっかりと目を通し、念頭に入れ業務にあたる。職員個々の処遇技術の向上・職員間の情報共有を図る。」を目的に実施した。

引き継ぎノートを活用し情報の共有を図り、事故報告書にしっかりと目を通せるよう書類場所等の整理・確認の流れを確立することで、再発防止や危険予測したケアを行った。その結果、御利用者の状態に応じたケアを適切に行うことにより、職員の意識が高まり、安全面に配慮した関わりを行うことによって再発防止に繋がった。

レクリエーション委員会

今年度の目標である「個々にあったレクリエーション支援の活用性」を目標に掲げ、一年間レクリエーション活動を行いました。ご利用者の重度化に伴い、昨年度と同様に参加される方が限定される結果となった。

4月、昨年度の反省より全体のレクリエーション支援の内容を一部変更し支援にあたることにした。再度委員会で検討を行い、少人数でも対応可能な健康体操や口腔体操、タクティールケア等のレクリエーション支援を取り入れることにしたところ、参加率も増加し、ご利用者も積極的に取り組まれ、機能訓練を兼ねた意欲向上に繋がった。また、個別レクリエーションに重点を置き、歩行訓練・外気浴・作品作りなどを季節に応じて取り入れることで、飽きのない変化あるレクリエーション支援を実現することが出来た。

身体拘束・虐待防止検討委員会

今年度の委員会活動の内容としては、センサーマットの必要性の確認、その検討によるセンサーマットの撤去、ベッドサイドレールの本数を安全面に配慮し見直す、御利用者への適切な声掛けや支援が行えているか等に視点を置き活動した。

結果として、多くのご利用者のセンサーマットの撤去、ベッドサイドレールの本数を必要度に応じて見直すことができた。環境面でも布団などが汚染されたらすぐに交換を行う等、常に清潔で心地の良い環境が提供できた。

くもん学習療法委員会

昨年までは年1～2回と少ない頻度で実施していた合同学習会も、少人数で月に1回行うことで定着した。成果としては、学習回数を449回から669回と1.5倍近く増やすことができた。職員一人ひとりが、学習療法も大切なケアの一つと認識できたと思う。

感染症対策委員会

職場の課題として、①職員の体調管理、②ご利用者・職員の手洗いが不十分なこと、③感染症拡大防止のため、早期に対応をとる、ことがある。

月1回感染症対策委員会を開催し、看護・介護・歯科衛生士等を含む多職種で連携し、感染症予防に努めた。インフルエンザ感染症予防では、職員全員にエアーマスクの携帯とハイター液でのモップ拭き等、発症予防のため早期に対応し、施設内での感染症の発症は防げた。

入所検討委員会

平成29年1月末にて現在の長期入所の入退所者は退所者10名、入所者10名となっている。退所者が出たら入所検討委員会を速やかに開催し、入所指針に基づき公正で円滑な入所案内を行った。内訳として退所（男性7名・女性3名）、入所（男性3名・女性7名）となっている。昨年の内訳をみると、平成28年度退所（男性6名・女性9名）、入所（男性7名・女性8名）と、男性の退所者が多く男性の入所者が減少となっている。待機者自体も男性が少ないことも関係していると思われる。施設での看取りに関しては、10件中6名であった。入所受付者も昨年度同様、現在230件を超えている。申込者の状況把握に努め、迅速な利用案内が出来るように随時、待機状況を整理する必要がある。

研修委員会

各委員会から研修内容を提議するとともに、その時々福祉業界の流れを取り入れた内容とすることで、職員がこれからのビジョンを描き、取り組みが出来るようにした。また、施設内での研修については、定例研修以外にも自主研修として、月に1回、近隣施設職員等にも案内し、知識・技術の共有を図る取り組みを行っている。この目的としては先にもあげた情報の共有もあるが、法人理念のなかに掲げている「社会づくり」への取り組みの一つとしており、今後、研修内容や案内に工夫をし、職員以外にも地域住民にも参加して頂けるようにしていきたいと考えている。外部研修においては、勤続年数や希望・研修個票に基づき、派遣調整を行った。研修後は、報告書を記載し、研修の振り返りを行うとともに、研修内容を如何に施設に反

映させていくか等を、職員会議において復命研修とし、報告しケアの向上に努めた。

防災委員会

訓練を通して、地元消防団や大川広域消防、市行政の担当者との連携も図れた。土砂災害を想定した合同避難訓練では、マスメディアも来られ、その熱心な取り組みがニュースで報道された。

① 火災想定訓練の実地 4回/年

- ・消火器、消火栓の使用訓練
- ・消防署立会い避難訓練 1回/年

大川広域寒川分署の立会いのもと、避難訓練及び消火器の使用講習を行った。

② 土砂災害想定避難訓練（6月8日）

のぞみ園、さぬき市危機管理課、地元消防団、大川広域西消防寒川分署と合同で実施。万が一の事態にも冷静に、誰もが的確に対応できることも目指し実施した。

③ 地震災害想定避難訓練 1回/年

④ 備蓄品の整備

大規模災害時にも対応できるよう、発電機・投光機・その他必要物品を順次整備していく。備蓄品は3か所に分散させており、万一の際にも対応できるようにしている。

（6）家族との連絡、協力体制の強化

[家族会の開催]

①第1回家族会（平成28年6月26日）

- ・平成27年度事業報告
- ・「ゆたか荘の防災について」 新開副施設長
- ・「ゆたか荘での暮らし」～1年の軌跡～
- ・昼食交流会

②第2回家族会（平成28年9月18日）

- ・講演「生活から“食”を捉える」～美味しかったの笑顔を求めて～ 管理栄養士
- ・講演「“食”を通じて「希望」を届ける」～「食の楽しみ」の追求
森永乳業グループ 株式会社クリニコ リーダー 藤本奈美氏

③第3回家族会（平成29年2月26日）

- ・「平成28年度各部署・各委員会の取り組み進捗状況報告について」
- ・平成28年度ご家族アンケートの依頼
- ・福祉サービス第三者評価受審について（3月9日・14日・15日）

[アンケート等]

- ご家族アンケート年1回実施
- ご利用者アンケート年1回実施

第5章 デイサービスセンターゆたか事業報告

平成28年度において利用者数の確保、定着への取り組みを行なってきた。

周辺地域での多様なサービスが増加、充実していくなかで利用人数の大幅な改善はみられなかった。利用者の在宅生活の継続に繋がる生活へのハリ、機能状態の維持・向上を重点的に取り組むなかで利用者満足の声が本人・家族から聞こえており、サービスについてはおおむね評価できる一年であった。一方で在宅への繋ぎ止めとなる家族の介護負担軽減に繋がる柔軟な取り組みがまだまだ不十分であった。又、今後において利用定員の見直しと職員配置の適正化が課題である。

(1) 要介護度別利用者数

要支援・総合事業対象者

実人数（人）

	総合事業 (チェック リスト 対象者)	要支援1	要支援2	合計
平成27年度		73	266	339
平成28年度	4	120	273	397

要介護

実人数（人）

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
平成27年度	305	390	235	84	82	1096
平成28年度	288	422	225	75	65	1075

- ・在宅生活から施設サービスへのシフトが中重度利用者を主にみられていた。
独居世帯の生活困難や同居世帯においての家族介護の負担増が施設サービスへの移行要因と考えられる。
- ・要介護者の介護サービスの併用が年々増加傾向であった。
- ・介護保険サービスが初めてとなる要支援者の問い合わせは近年より増加傾向であった。

(2) 会議状況

デイサービス会議：28年度12回実施

- ・新規予定者の情報共有や同性介護の視点から利用者個々のサービス評価、見直しを検討した。又、

業務内容の評価、見直し等を定期的に検討し現状の体制に合った対応づくりを行なった。

(3) レクリエーション

1週ごとに選択制レクリエーション・運動レクリエーション・物作りレクリエーション・脳トレレクリエーションを基に年間通して実施した。
月ごとに季節に合ったプログラムを検討しながら立案して実施していき、又、利用者からの興味、関心ごとの聞き取りを参考にすることで参加意欲も伺えて行うことが出来た。

(4) 機能訓練

利用者個々のプログラムを作成し実施していった。28年度より3ヶ月ごとに居宅訪問にて在宅生活の様子を聞き取りしそれに基づいてのプログラム作成、評価が重要となり取り組みを行なった。機能訓練指導員を中心に各職種職員が共同してプログラムの作成、実施、評価を行う事で利用者情報の共有が自然に浸透していく流れができていった。

(5) 地域交流

28年度交流報告

- 5月： ボランティア団体（笑いヨガ）による健康教室
- 8月： 豊考舞会による日本舞踊等の披露
- 9月： 琉球国祭り太鼓による琉球太鼓の披露
- 10月： ボランティア団体ボラエもんによる手品・踊りの披露
- 11月： 踊ってイキイキ会による民謡、舞踊の披露
- 12月： さぬき舞人によるよさこい踊りの披露
さぬき警察署演劇部による悪徳商法啓発の演目披露
- 2月： おいで舞会による阿波踊り、銭太鼓の披露
- 3月： オカリナを楽しむ仲間の会によるオカリナ演奏の披露

第6章 ハーティヴィラ亀鶴事業報告

1. ハーティヴィラ亀鶴ショートステイセンター事業報告書

定期利用の増加、既存利用者の利用日数延長、新規利用者の利用開始も増え、前年度と同様の利用者数合計、1日平均利用者数ともに確保出来た。年始にロングショート利用者1名のインフルエンザ感染はあったが、利用予定者への状況報告や意向の確認を随時していくことで利用者数の低下には至らなかった。

今後も他事業所への長期入所や死去等での利用終了となるケースも予想される。居宅介護支援事業所と連携を取りながら、利用者確保やスムーズな利用、定着に繋がられるようにしていきたい。

①利用状況について

【利用延べ人数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	6	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	8
要介護1	18	15	15	22	13	20	24	24	27	24	20	18	240
要介護2	82	84	93	106	93	85	118	104	106	46	36	72	1,025
要介護3	286	229	231	251	291	290	281	270	244	336	310	318	3,337
要介護4	86	140	132	136	134	125	129	122	94	102	94	104	1,398
要介護5	76	111	95	78	70	60	62	60	97	95	84	87	975
合計	548	585	566	595	601	580	614	580	568	603	544	599	6,983

【稼働率】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用合計	548	585	566	595	601	580	614	580	568	603	544	599	6,983
1日平均	18.27	18.87	18.87	19.19	19.39	19.33	19.81	19.33	18.32	19.45	19.43	19.32	19.13

※28年度稼働率：95.66%

- ・稼働率に関しては目標の95%を達成出来ている。

②委員会活動について

感染対策委員会

開催日	4/12	5/13	6/21	7/13	8/18	9/13	10/26	11/18	12/12	1/11	2/14	3/8
人数	6	7	6	6	5	7	6	7	6	6	6	7

- ・感染症についてはショートスタッフ3名、利用者1名がインフルエンザA型を発症。他部署からのインフルエンザ発症はなかった。高齢者にとっては感染症が命に係わることもあるため、スタッフの健康状態の確認、異常があった場合は早期に対処するとともに、手洗いやうがい、消毒は継続していきたい。
- ・季節によって流行する口腔ケア、インフルエンザ、ノロ等を感染症の研修として随時行っている。
- ・感染対策マニュアルについては年1回の見直しを実施している。

レクリエーション委員会

開催日	4/30	5/31	6/28	7/10	8/31	9/21	10/31	11/28	12/29	1/31	2/28	3/15
人数	3	3	3	2	3	4	3	4	4	3	3	3

- ・作品作りを土曜日と設定して取り組んだが、時間が足りずに途中で終わってしまうことが多かった。
- ・手作りおやつは色彩よくデコレーションでき、喜ばれていた。今年度はロングショート利用者

の誕生日にケーキ作りを実施したが、ケーキを作る月が続くこともあった。来年度はケーキにこだわらず、季節感あるおやつ作りを行っていききたい。

- ・歌を歌うことは喜ばれることが多く、スタッフのギター演奏も好評であった。両ユニットの交流も兼ねて、今後もギター演奏を定期的に行っていききたい。

安全対策委員会

- ・【年間件数】事故報告：97件、ヒヤリハット：7件
- ・昨年度と比較すると倍以上の件数である。主に内出血の報告が多く、夜間帯やスタッフが少なくなる時間帯での事故が多く見られた。随時、改善策の検討や実施を行っており、改善に繋がっているケースもあるが、改善に至らず、同様の事故が発生することもあり、完全に解決は出来ていない状態である。
- ・スタッフひとりひとりの危険予測をした行動が最重要であり、今後も継続して再発防止に対する意見交換や事例検討を行っていききたい。それと同時にゆとりあるケア、異常を早期発見、迅速な対応が出来るスタッフ育成、環境作りを行っていく。

生活向上委員会

開催日	4/6、4/24	5/6	6/6	7/4	8/4	9/1	10/4	11/3	12/6	1/5	2/6	3/1
人数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	5

- ・サービス担当者会議に合わせた24時間シートの更新（年2～3回）は定着してきつつある。
- ・委員会で決定、確認した事項ですぐに改善を要することは当日出勤スタッフには口頭、その他のスタッフには書面に記載+申し送りで周知を行っている。大きな混乱はないが、スタッフの勘違いや周知が十分ではなく、ケアの統一が図れていない部分もあるので、留意していききたい。
- ・入所時の環境整備や本人の意向に合わせた介助、状況に合わせたケア内容の変更など、利用者が安心・安全に過ごせるように情報共有や「ハウ・レン・ソウ」を大切にしていきたい。

拘束委員会

開催日	11/3	12/6	1/5	2/6	3/1
人数	5	5	5	4	5

- ・身体拘束については実施していない。（センサーコールは5台使用中）
- ・物理的（4本柵、ミトン型手袋等）な拘束の他、「ちょっと待って」「ここに居って」といった言葉は利用者の動きを制限する言葉の拘束にあたるため、各スタッフが気をつけていく必要がある。

②その他

環境整備

- ・月ごとに項目を決め、分担表を作成して実施を行った。（8、11、1月は実施せず）
- ・枕の洗濯、乾燥は季節の変わり目に実施。

ユニット会議

亀	開催日	4/11	5/10	6/10	7/8	8/12	9/6	10/7	11/11	12/12	1/10	2/8	3/8
	人数	5	6	6	7	8	8	7	7	7	7	7	7
鶴	開催日	4/14	5/13	6/8	7/6	8/9	9/3	10/5	11/9	12/7	1/6	2/10	3/10
	人数	6	6	6	6	5	5	5	4	4	4	5	5

- ・月1回開催し、各ユニット（主にロングショート）のケア内容の検討を行った。また生活向上委員会で決定された内容を周知している。
- ・夜勤や日勤で両ユニットの対応を行う機会も多いため、他ユニットの情報もしっかりと把握していく。

2. ハーティヴィラ亀鶴デイサービスセンター事業報告

平成28年度は利用者増がうまくいかなかったこと、支援者の割合が多くなったことが利益増収につながらなかった。

平成29年度は総合事業への取り組みを行っていき、相乗効果をもたらしていきたい。

(1) 目標・方針に対する取り組み

- ① ご利用者個々のニーズを把握し、個々に適したサービス提供の実施
初回アセスメントを担当の職員が必ず行い、統一した聞き取りでサービスの内容をなくす取り組みをした。また、毎月のモニタリング時には月間の変化状況をスタッフから細かく聞き取り反映させることに留意した。
- ② 安全で快適な空間づくりを行い、清潔な環境を整える
環境整備のマニュアルを整備し、常に快適で安全な空間づくりに努めた。
- ③ 職員間で情報共有し、統一したケアの実施
デイサービス会議と同時に行う研修会で、利用者の体調や介護度変化に伴う周知研修を行った。
- ④ 関係各部署と情報共有することで、円滑なサービスの実施
毎月のサービス付き高齢者住宅・ヘルパーステーション会議への参加をし、利用者情報の共有を行った。毎月開催の感染症対策委員会では施設内全部署が集まり感染症の罹患に対しての共有を図った。

(2) 事業

- ① 指定通所介護事業 定員35名の実施をした。

利用状況

月	介護度別							実籍数	延べ数
	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5		
4	2	11	19	11	9	6	1	60	633
5	2	11	18	12	9	6	1	60	631

6	3	10	17	15	11	6	1	64	630
7	3	11	16	16	9	7	1	64	667
8	2	13	17	17	9	7	1	67	726
9	2	14	16	18	10	7	1	70	687
10	2	14	17	17	11	7	1	69	716
11	1	13	17	18	10	7	1	67	701
12	2	12	17	19	10	7	1	68	677
1	1	12	15	21	10	7	1	67	635
2	3	12	15	21	11	7	1	70	646
3	3	11	15	17	11	8	2	67	679

延べ人数 8,028人 1日平均 26.0人

- ② 指定介護予防通所介護に相当する第1号通所事業（35名定員 に含む）の運営及びさぬき市総合事業からくり教室の申請（採択）と実施に向けた準備を行った。

・事業開始日 平成29年4月～ 毎週水曜日

デイサービス会議と委員会の運営（月1回）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実施日	28	26	23	27	25	29	27	24	22	26	23	23
人数	11	11	12	12	12	12	13	13	13	11	12	12

（4）その他

- ・デイ通信…毎月1回発行した。
- ・歌のボランティア…毎月1回ボランティアによる歌の慰問を行った。

3. ハーティヴィラ亀鶴ヘルパーステーション事業報告

90%が同一施設内でのヘルパー業務となり、利用者との時間管理の難しさが課題となっている。ヘルパー時間終了後も継続的にサービスを求められることもあり、生活支援サービスとして介護を行うこともある。収支面では朝夕のヘルパー利用者が減ったことにより収入は半減した。登録ヘルパーの採用も含めて費用面の再検討を行っていきたい。

利用者状況

要介護度	70～75	75～80	80～85	85～90	90～95	95～	合計
認定なし	0	0	0	0	1	0	1
要支援1	2	0	0	0	0	0	2

要支援2	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	0	0	0	0	1	0	1
要介護2	0	0	0	1	1	0	2
要介護3	0	0	1	1	4	4	10
要介護4	0	0	0	0	0	0	0
要介護5	0	0	0	0	0	0	0
合計計	2	0	1	2	7	4	16

サービス提供時間

サービス内容	単位数	延べ回数	実人数
身体介護1	245	71	1
訪問介護初回加算	200	2	2
身体1生活1	312	146	2
身体介護01・同	149	57	1
身体介護1・同	221	433	10
身体1生活1・同	281	7	1
身体介護2・同	349	114	3
身体2生活2・同	470	51	1
生活援助2・同	165	617	10
生活援助2	183	52	1
訪問型サービスⅠ	1168	27	2
訪問型サービスⅡ	2335	44	3
訪問型サービスⅢ	3704	44	1
訪問型サービス初回加算	200	3	3

会議の開催

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	15	6	1	8	11	13	13	8	6	11	6	2

4. ハーティヴィラ亀鶴サービス付き高齢者向け住宅事業報告

サービス付き高齢者向け住宅も介護施設への中間施設との役割を担ってきたが、年々介護度が上昇することによって、生活支援上の介護や介助が必要になる利用者が増えてきた。24時間近くで見守りを必要な利用者への対応や、円滑な次の施設への移行支援が今後の課題である。

利用者状況

区 分	利用者延べ人数	うち退室者	28年度新規利用者
人 数	12名	2名	3名

要介護度別利用者数

区分	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
利用人数	0	0	1	2	9	0	0	12

会議の開催

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	15	6	1	8	11	13	13	8	6	11	6	2

5. ケアプランセンターゆたか事業報告

平成28年度は、主任介護支援専門員の資格取得者1名と新任の職員を2名増員して新規の利用者へのニーズに対応する予定であったが、入院や利用中止される利用者が予想以上に多く、増員メリットを生かせなかった。職員を増員した分経費も多くなることが予想されたので、経費削減に努めた。しかし利用者増がかなわず事業所の収支を圧迫したが、年度末に向かって復調の兆しが見受けられた。

特定事業所となり初の実地指導もあったが、指摘もなく評価されたことは今後の事業方針としては一つの目途が立った状態である。

事業

- ① 居宅会議・事例検討会の開催 毎週月曜日に開催した。
 - ・業務内容についての意見交換 書類関係・行政からの連絡事項について周知を行った。
 - ② 事業所内でのケアマネージャー研修・事例検討会を毎週月曜日に開催した。
 - ・各介護支援専門員による事例報告について意見交換を行います。
 - ③ 包括支援センターケアマネリーダー主催による、研修に参加し、情報の収集・知識の習得並びに地域ケアマネージャーとの連携とスキル向上に勤めた。28年度は4回参加した。
 - ④ 県長寿社会対策課主催の研修に年2回参加した。
 - ⑤ 相談援助技術の向上のための研修参加
 - 鎌倉 節子 H28.年7月・10月・12月 さぬき市包括・ケアマネリーダー研修参加
 - 香西 春代 H28.年7月・10月・12月 さぬき市包括・ケアマネリーダー研修参加
 - 高村 えりこ H28.年7月・10月・12月 さぬき市包括 ケアマネリーダー研修参加
 - 多田 由美 H28.年7月・10月・12月 さぬき市包括 ケアマネリーダー研修参加
- H28年12月 主任ケアマネ研修

平成 28 年度 介護報酬利用者件数

	支援 1	支援 2	計	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計
4 月	2	11	13 件	27	35	27	15	6	110
5 月	1	12	13 件	30	40	23	18	8	119
6 月	1	10	11 件	27	42	22	16	9	116
7 月	3	9	12 件	27	47	22	16	11	123
8 月	2	10	12 件	31	45	25	13	12	129
9 月	2	10	12 件	31	48	24	14	12	129
10 月	2	11	13 件	30	45	25	13	13	126
11 月	3	12	15 件	33	44	25	14	12	128
12 月	3	13	16 件	33	44	25	13	12	127
1 月	3	12	15 件	34	41	22	14	10	121
2 月	4	12	16 件	34	43	22	14	8	121
3 月	4	12	16 件	37	40	22	17	8	124

平成 28 年度 新規利用 終了者 (予防・介護)

	新規予防	契約終了	新規契約介護	契約終了
4 月			4 件	3 件
5 月			7 件	3 件
6 月			4 件	3 件
7 月			10 件	2 件
8 月			3 件	4 件
9 月	1 件		5 件	2 件
10 月	1 件	1 件	2 件	3 件
11 月	2 件		4 件	1 件
12 月			2 件	6 件
1 月			4 件	5 件
2 月			3 件	4 件
3 月	3 件		6 件	0 件
			54 件	36 件

3 月 31 日現在 相談受け 4 月から利用予定者 10 件 (要介護者) あり

※介護支援専門員一人当たり担当数 (平均 2.6 名)

※入院・利用休止者などあり ケアマネ 1 あたりの請求数と担当件数と合致はしない。

※毎月の請求件数のみ記載。